



発行所 愛媛県今治市大三島町宮浦  
日本総鎮守 〒794-1393

大山祇神社社務所

電 話 (0897)82-0032

F A X (0897)82-0019

<https://oomishimagu.jp/>

大 三 島 海 事 博 物 館  
大 三 島 大 社 講



英信流居合奉納



年の瀬も迫った十二月二十六日、恒例の注連縄交換が行われた。拝殿向拝と神門の大注連縄は三年に一度交換され、今年も神門の大注連縄の交換の年であった。大注連縄は大人五人がかりで取り付け作業が進められ、一時間ほどで作業は終了した。まだ若々しい青さが残り、蘭草の香り漂う大注連縄が、また三年、大神様の坐す境内を守ることとなる。



注連縄交換前



交換作業中



注連縄交換後

### 神門 大注連縄の交換



御更衣御戸開祭

新嘗祭を翌日に控えた十一月二十二日、【御更衣御戸開祭】を齋行。この御更衣祭は、他の諸祭典と比較しても古くから重要視されてきた。詰まるところ、御祭神の衣替えの祭典である。御更衣祭は年に二度、春の例大祭の前日と、秋の新嘗祭の前日に中祭式で行われる。御本社、両摂社それぞれの内陣に新しい御幣と神御衣を奉獻し、祭典奉仕は三社合わせて二時間を超えることもある。こうして御祭神が清々しい衣をまとっ



新嘗祭

た状態で、春・秋それぞれの大祭を迎える。十一月二十三日、秋の大祭、【新嘗祭】を齋行。新嘗祭は同日、皇居にて行われ、宮中の儀にあわせ全国の神社でも大祭式で奉仕される。当日は土砂降りの雨だったため、斎館からの参進は中止、雨儀での齋行となった。神饌には抜穂祭で収穫された玄米をはじめ、海の幸、山の幸を献供し、今年の豊作を盛大に感謝した。

### 新嘗祭 御更衣御戸開祭

十二月二十二日  
十一月二十三日



大祓式

十二月三十一日午後四時、祓殿において【大祓式】を齋行。祓主は西の方を向き大祓詞を奏上。官司以下祭員は、【切麻】を以て自身を祓い、祓物【木綿】を八針に執り裂く(八つに切り裂く)。その後、人の形をした【人形】で

### 大祓式

十二月三十一日



切り裂く木綿(左)と穢れを移す人形(右)

全身を撫で、息を吹きかける。祭典にて使用した祓物は、全国の崇敬者の方々からお預かりした人形と合わせて海へ流し、古式に則り、心身を祓い清めた。

十二月も下旬となると、大掃除や年賀状の作成等で慌ただしい日々が過ぎてゆく。

「師走」という言葉は、師（僧）も走り回るほど忙しいという事から由来すると言われていたが、神社も例外ではなく、新年を迎える準備が着々と進められる。

一方境内では、年末においても多数の参拝者が訪れる。この一年の無事を感謝し、また新たな年の無事をお願いする方が殆どであるが、昨今のコロナ禍において広まった、混雑する新年を避けて早めに参拝する「分散参拝」に訪れる方も見受けられる。いずれにせよ大神様へ祈る感謝は人それぞれだが、その姿を見ていると、私たち神職も年の瀬を実感する。

大晦日。一年の罪穢れを祓い清める大祓式を斎行、続く除夜祭も滞りなく執り修めた。その後、通常通り一度午後五時に閉門するものの、元日午前零時に合わせ開門



吊り灯籠に光が灯る



新年直前の静かな拝殿

## 職員の手記

### 〜大山祇神社の年越しを語る〜

十二月も下旬となると、大掃除や年賀状の作成等で慌ただしい日々が過ぎてゆく。

「師走」という言葉は、師（僧）も走り回るほど忙しいという事から由来すると言われていたが、神社も例外ではなく、新年を迎える準備が着々と進められる。

一方境内では、年末においても多数の参拝者が訪れる。この一年の無事を感謝し、また新たな年の無事をお願いする方が殆どであるが、昨今のコロナ禍において広まった、混雑する新年を避けて早めに参拝する「分散参拝」に訪れる方も見受けられる。いずれにせよ大神様へ祈る感謝は人それぞれだが、その姿を見ていると、私たち神職も年の瀬を実感する。

大晦日。一年の罪穢れを祓い清める大祓式を斎行、続く除夜祭も滞りなく執り修めた。その後、通常通り一度午後五時に閉門するものの、元日午前零時に合わせ開門

する。そのため、神職は日付が変わる少し前に神社へ集まり、様々な準備に取りかかる。

閉じている神門の前には、年越しを待ちわびる人の列ができていく。それを見ると、すでに一日働いた仕事終わりの夜にもかかわらず、じわじわと頭が冴えてくる。

境内の吊り灯籠全てに光が灯れば、いよいよ新年を迎える準備も佳境を迎える。正月のみ頒布する授与品を並べ、御祈禱を受けた方

にお渡しする撤下品を確認する。各々が準備に勤しむ中、時間は刻一刻と進んでいく。

午後十一時四十五分。神門の外では、今か今かと待ちわびる参拝者の活気を感じるが、内側ではいまだ冷えた空気がピンと張りつめている。この時、私の感情は実に混沌としている。年越しの瞬間を待ちわびる静かな興奮はあるものの、開門と同時に始まるであろう慌ただしさを思うと、気が押されそうになる。私は無事一月一日を終えることができるのだろうか、という不安が頭をよぎる。

開門二分前。境内に三か所ある門のすべてに職員が待機する。私にとって、ここで迎える正月は四

呼ばれ、長さ十八センチ、直径六センチに加工した円柱状のものである。毎年一本のみが奉製され、これを拝殿前に参集した人々の中に投げ入れる。その福木を持つて神門、もしくは左右の門を最初に出た者に福木が与えられ、その者は当年の家内安全が約束されるといわれている。しかしながら、昨年に続き新型コロナウイルス対策として、この福木神事は取りやめ、福木は神社にて保管することとなった。

回目なのだが、奇しくも毎年、正面の神門を開けている。ただ割り当てられた場所に待機しているだけなのだが、正面の開門はなんとも言いがたい特別感を感じる。

私が大三島で迎えた初めての正月。この門の門が異常に固く、年明けの太鼓の合図から十秒ほど開門が遅れてしまったことを思い出す。それ以降、門は事前に抜いておくこととなった。あとは宮司の号鼓に合わせて、扉を内に引くのみ。取っ手を掴む手に自然と力が入る。

一月一日午前零時。静寂を打ち破る号鼓が響いた。直前に時計を見ていないため、突然の号鼓にビクッと体が震えるものの、速やかに開門。その後急いで祈禱所へ戻り、装束の着装を行う。

数分前と門内の状況が異なりすぎて、頭の処理が追い付かない。真夜中だというのに境内は大勢の参拝者で埋め尽くされた。

我々神社職員は、今年も怒濤の仕事始めで新年を迎えた。

## 歳旦祭

一月二日

元日午前八時、【歳旦祭】が厳粛に斎行された。宮司以下、祭員、参列者多数が斎館を立ち祓殿へと参進。祓殿において祭員、参列者らが祓いを受け、続いて御本社拝殿に参進。拝殿にて、皇室の弥栄、五穀豊穰、国民の繁栄を祈願した。



歳旦祭



## 赤土拝戴神事・生土祭

一月七日、大山祇神社の特殊神事のひとつ【生土祭】が斎行された。

生土祭に先立ち当日昼過ぎ、かつての神体山である安神山にて、生土祭で使用する赤土を採取する【赤土拝戴神事】が執り行われた。その後、持ち帰った赤土を細かく解し、異物を取り除く作業が進められた。

生土祭に合わせて通常は、「福木神事」と呼ばれる神事も行われる。当社の福木は【真那比木】と



赤土拝戴神事



生土祭祭場

呼ばれ、長さ十八センチ、直径六センチに加工した円柱状のものである。毎年一本のみが奉製され、これを拝殿前に参集した人々の中に投げ入れる。その福木を持つて神門、もしくは左右の門を最初に出た者に福木が与えられ、その者は当年の家内安全が約束されるといわれている。しかしながら、昨年に続き新型コロナウイルス対策として、この福木神事は取りやめ、福木は神社にて保管することとなった。

天正七年十一月吉日

(220)

夢想之連歌

年のはしめに筆とりて  
いく春かけし言葉のみち  
風たゆむ子日の松やかすむらん  
さしいつる野に遠きふる里  
たひ衣たち別行末くれて

御 西歳 豊祐 重常 安任

はけしき浪をしたふ舟かけ  
千鳥なくうらわに月や更ぬらん  
霜さゆるよのかねかすかなり  
風そよくさゝのかりほの一むらに  
けふりたなひくみやまへの里

初ウ  
たちよるもこなたかなたは物すこき  
人めをしのふなみたならずや  
さをしかのつまを尋る聲はして  
みち見えわかぬきりのあさ明

加雪 重良 家次 西歳 安信 家次 豊祐 加雪 重良

月に行つりの小舟の数くりに  
ともし火うすき山おろしの風  
あはれなるまなひのまとのかけさひて  
それかあらぬか古寺のうち  
打忘ける野面の露のむらぐくに  
雨をもよふす雲の涼しさ  
いけ水にうつるふ花やにほふらん  
春をつくりし庭そのとけき  
(初折のみ)

家次 安任 豊祐 加雪 安任 豊祐 家次 重良

# 大三島宮 法楽連歌

天正七年十一月吉日

(221)

夢想之連歌

秋ほこる家はつゝきの物そかし  
みきりの草に残るあつき日  
虫の音に月かけ遅き野を分て  
こえ行山のかりのつら  
岡邊のかり田の面や暮ぬらん

御 西歳 重良 加雪 重常

ところくの水白きかけ  
ひろき江にひ残るしをの見え渡り  
霜うちけふる風のむら声  
朝日さすまつにむれるたつ鳴て  
雲ひはるかにたとり行ころ  
おもかけやみやこの空にうかむらん  
わかすむかたをおもひてのたひ  
玉つさもうらみはかりの聲はして  
しのひくくの山のはの月

安任 豊祐 家次 西歳 重常 安任 豊祐 家次 加雪

きりのまやわかれの道にいそくらん  
あけはつる夜をうちそをとろく  
一むらのたけそよき立鳥の音に  
ふりしく雪の庭のあわれさ  
さえわたるよものをちこちさひしくて  
かすみかくれのいり相のかね  
夕くれは花の色かもしほらん  
ななきひかりのかけしつかなり  
(初折のみ)

安任 安信 重良 安任 豊祐 加雪 安任 豊祐

## 編集後記

明けましておめでとうございます。大三島宮第二〇八号をお届け致します。

今回より社報担当を引き継ぎました、工藤と申します。社報第二〇一号では、新任として御挨拶を申し上げ、それから早二年が経とうとしています。当時、神職としても社会人としても、右も左も分からない状態で奉職いたしました。が、本日まで奉仕を続けられています。非常に嬉しく思うと同時に、お世話になっている方々には大変感謝しております。

社報の広報、すなわち「顔」である社報担当という要職に就くなど、全く思ってもいませんでしたので驚いた反面、非常に嬉しくもありました。と言いますのも、人にはそれぞれ、得意不得意がございます。同じ神職の同僚を見ても、力自慢で大変頼もしい者や、迅速かつ的確に事務処理をこなす者など、多様であります。私はどちらかと言えば、後者にあたります。また以前からこのような創造的な仕事に興味がありましたので、この与えられた貴重な機会を無駄にしないよう、一号一号、心を込めて作成していきたいと思っております。今年も卯年でありますから、崇敬者の皆様と共に飛躍の一年になれば幸いです。拙い文章かと存じますが、何卒宜しくお願いいたします。



今年も頑張ります！



アンケートはここから

また、皆様からの貴重なご意見ご感想等を頂くため、アンケートフォームを作成いたしました。お持ちのスマートフォンでQRコードを読み取るか、当社ホームページの「お知らせ」から「社報第208号の発行について」を探していただき、記載されているURLからアンケートにご回答ください。集めたご意見等は今後の社報作成の参考にさせていただきます。

## 内子(巫女)募集

大山祇神社では、常勤の内子(巫女)を随時募集しております。募集要件は次の通りです。

- ◎十八歳から二十二歳までの未婚の女性
- ※年齢はあくまで目安です。一度お電話くだされば、この限りではございません。

詳しい待遇・勤務形態等は、当社までお問い合わせください。

大山 祇 神 社

TEL〇八九七-八二一〇〇三二一



